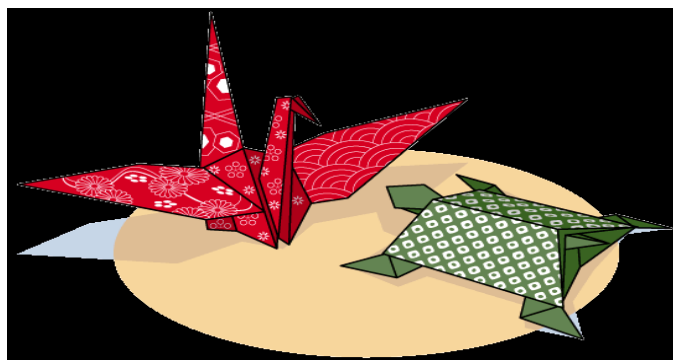


おたっしゃ調査

昭和 62 年度と平成 15 年度の健診データ
比較調査の結果(概要)



平成18年3月
千葉県

目 次

	頁
1 おたっしゃ調査の概要……………	1
・おたっしゃ調査とは	
・調査の概要	
・調査協力者	
2 結果の概要……………	3
3 同年代における昭和 62 年度と平成 15 年度の健診結果の比較……	5
・体型の比較	
・血圧の比較	
4 同じ人の昭和 62 年度と平成 15 年度の健診結果からみた 16 年間の 健康状態（肥満と血圧）の変化……………	7
・昭和 62 年度に肥満度が「普通」の人の 16 年後は…	
・昭和 62 年度に血圧が「異常を認めず」の人の 16 年後は…	
5 生活習慣と健診結果の関連……………	8
・健在の健康状態	
・現在の健康状態と血圧	
・現在の健康状態と飲酒	

1 おたっしゃ調査の概要

●おたっしゃ調査とは

「おたっしゃ調査」は、生活習慣と健康との関連を明らかにし、高齢になっても寝たきりや認知症にならないための予防策を立てる基礎資料とするため、鴨川市（旧鴨川市と旧天津小湊町、平成 17 年 2 月合併）の住民を対象に、千葉県と鴨川市が共同で行っている疫学調査（コホート研究）です。調査は平成 15 年度から 20 年度にかけて実施しています。

●調査の概要

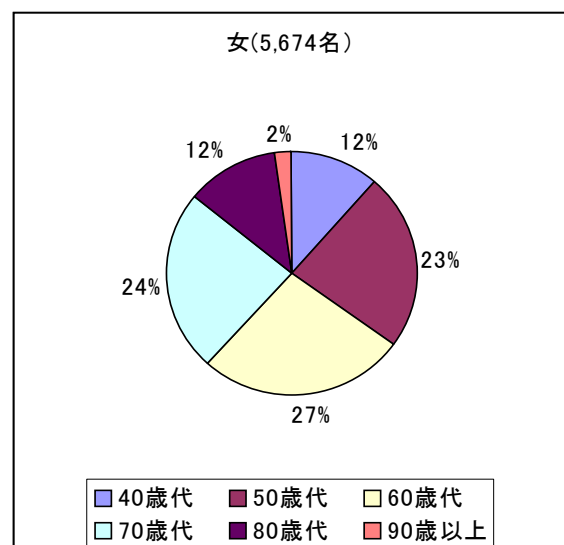
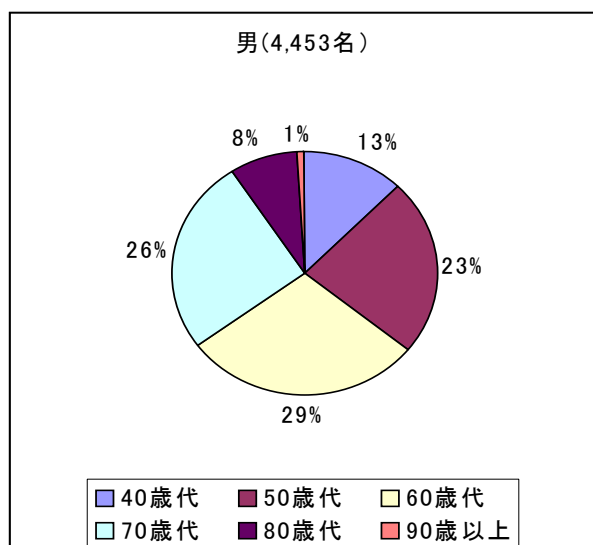
平成 15 年度 平成 16 年 1 月	調査協力キャンペーン	千葉テレビ・千葉日報
平成 16 年 1 月下旬～3 月	アンケート調査	(現) 鴨川市 40 歳以上全住民 23,073 名 回答者 10,739 名 (回答率 46.5%) 有効回答(性・年齢記載) 10,127 名 (男 4,453 名、女 5,674 名) 追跡同意者 6,511 名
平成 16 年度	追跡同意者の健診データ収集 昭和 62 年度データとの比較調査	昭和 62 年健診 1,292 名(男 477、女 815) 平成 15 年健診 2,186 名(男 933、女 1,253)
平成 17 年度 ～19 年度	追跡同意者のデータ収集	健診データ 疾病発生状況(脳卒中、心疾患、骨折) 介護状況調査(介護要因、介護度) 死亡・死因および転居調査
	「メタボリックシンドロームに関する中間調査」(平成 17 年)	対象：追跡同意者
平成 20 年度	アンケート調査	鴨川市 40 歳以上 住民

●調査協力者(アンケート回答者、追跡同意者)

1) ベースラインのアンケート調査

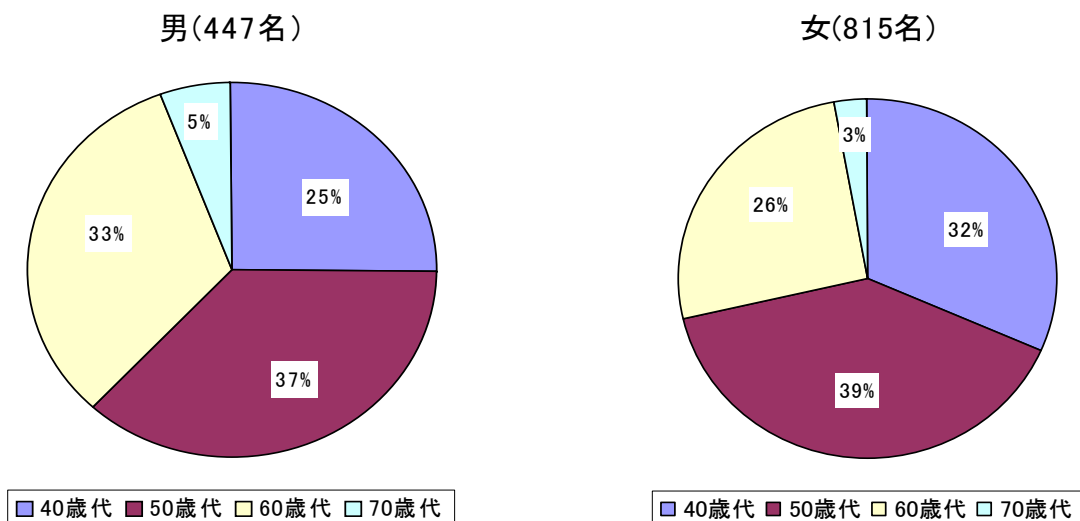
- (1) 調査時期 平成 16 年 1 月下旬から 3 月上旬
- (2) 調査票発送数 23,073 人、回収数 10,739 人 (回収率 46.5%)
- (3) 有効回答数(性・年齢が判明したもの) 10,127 人 (男 4,453 人、女 5,674 人)

回答者の性・年齢構成

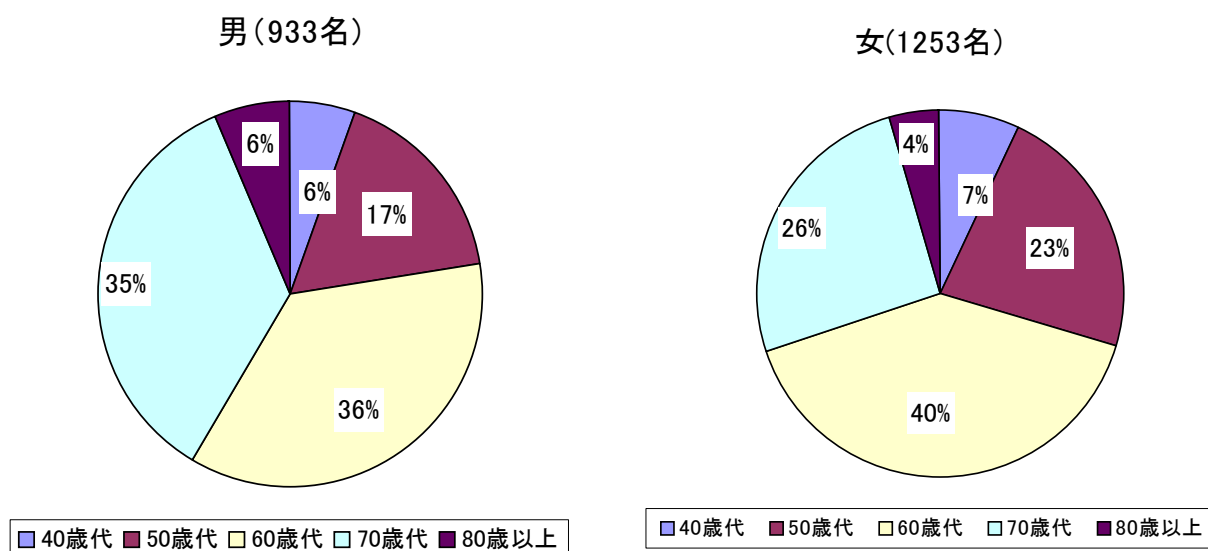


2) 追跡承諾者で基本健診受診の確認ができた人の性別の年齢構成

(1) 昭和 62 年度



(2) 平成 15 年度



(3) 昭和62年度と平成15年度の両方のデータがあった人数

(人)

昭和 62 年度の年代	男	女
40歳代	76	193
50歳代	126	205
60歳代	87	91
合計	289	489

2 結果の概要

同年代における昭和 62 年度と平成 15 年度の健康診断結果の比較から

男性は肥満者が増える傾向にあります。

昭和62年に比べ平成15年の方が、40歳、60歳代男性の『過体重・肥満』の割合が高く、男性に肥満が増加している傾向がみられました。

女性では、昭和62年よりも平成15年の方が、40歳代、50歳代の『過体重・肥満』の割合は低く、女性では肥満の増加はみられませんでした。

男性は、肥満と血圧に関連がありそうです。

最高(収縮期)血圧の判定が『正常高値』以上の割合は、男性の50歳、60歳代では昭和62年よりも平成15年の方が多くなっていました。

女性では、60歳代は平成15年の結果で、『正常高値』以上の割合が増加していましたが、その他の年代では大きな変化はありませんでした。

同じ人の16年間(昭和 62 年度と平成 15 年度)の健康状態(肥満と血圧)の変化から

昭和62年に40・50歳代の男性は、16年間で体重が増えた人が多く、60歳代の人では、男女ともにやせた人が他の年代より多く見られました。

同じ人について、昭和62年と平成15年の健診結果を比べると、昭和62年に肥満度(BMI)が『普通』の判定だった40歳代、50歳代の男性では、2割以上が『過体重・肥満』に移行していました。女性では、男性ほど大きな変化は見られず、年齢が高くなると『やせ』に移行した割合が大きくなっていました。

男女とも年齢が高くなると、血圧が高くなる傾向がみられました。

最高(収縮期)血圧判定の16年後の変化を見ると、『異常認めず』から『要医療』にまで変化した人も見られました。男女とも年代が高くなると『要指導・要医療』へ移行した割合が高く、女性の方がその傾向が強くなっていました。

追跡対象者の生活習慣と検診結果の関連から

健康状態が「良くない」と感じている人は、男女とも血圧が高い傾向があります。

平成15年の健診結果と生活習慣との関連を見ると、70歳代の男性以外は、男女とも現在の健康状態が「良くない」と感じている人の方が、最高(収縮期)血圧が高い傾向が見られました。

飲酒をしている男性は、血圧が高いようです。

男性では、現在飲酒をしていると回答した人の方がいずれの年代でも最高(収縮期)血圧が高く、飲酒者は血圧が高いことがうかがわれました。しかし、飲酒習慣と肥満度(BMI)の間には関連は見られませんでした。

3 同年代における昭和 62 年度と平成 15 年度の健診結果の比較

昭和62年度と平成15年度の同年代における健康状態を把握するため、昭和62年度と平成15年度の健診結果（データ）の共通する項目の値を同年代者において比較しました。

〈分析対象・検討方法〉

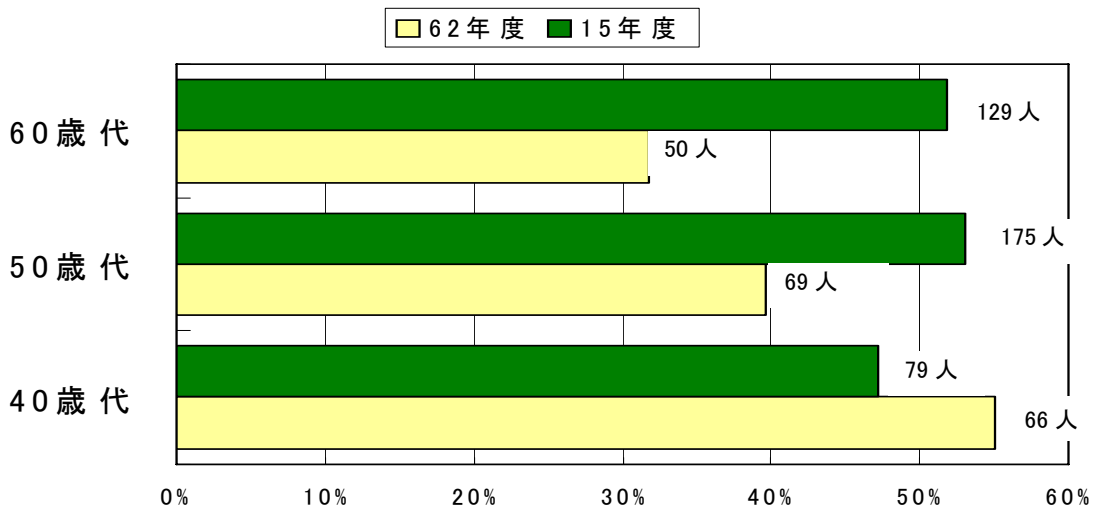
昭和62年度、平成15年度の40～60歳の健診受診者（昭和62年男451人、女793人、平成15年度男540人、女875人）について、肥満度（BMI）、最高（収縮期）血圧「130mmHg以上」の割合を年代別に比較しました。

肥満はBMIで評価し、18.5以上25未満を『普通』、25以上30未満を『過体重』、30以上を『肥満』としました。

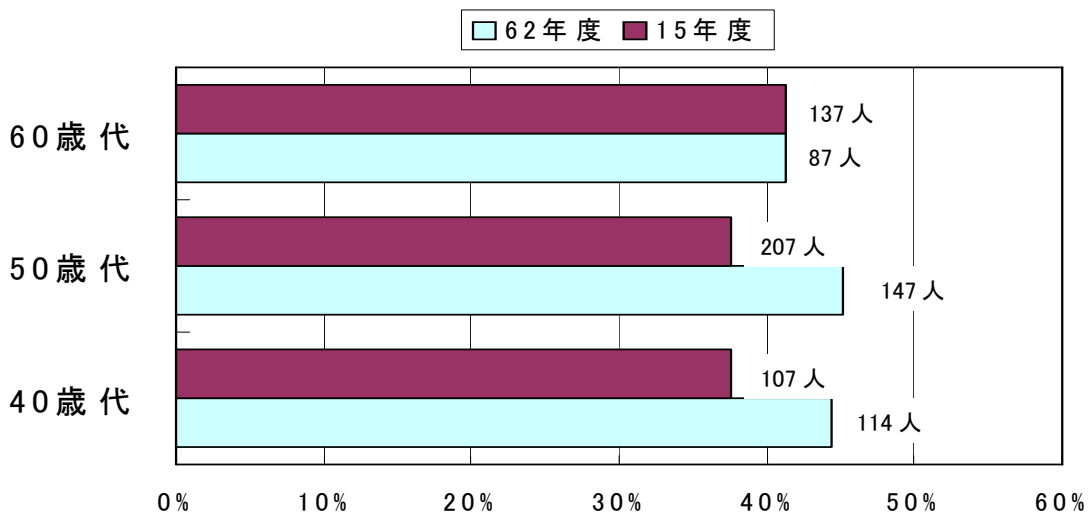
●体型の比較（BMI = 体重(kg) / 身長(m)²）

「過体重・肥満」の人の割合は、男性は50歳代、60歳代では増加していますが、女性では横ばいから減少となっています。男性は肥満傾向あり！

過体重・肥満者の年次比較（男）



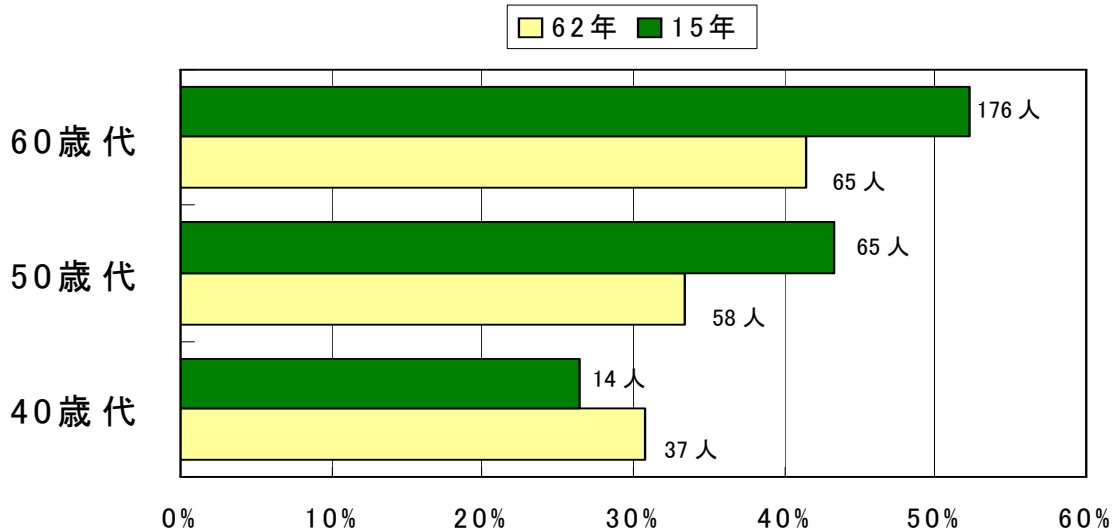
過体重・肥満者の年次比較（女）



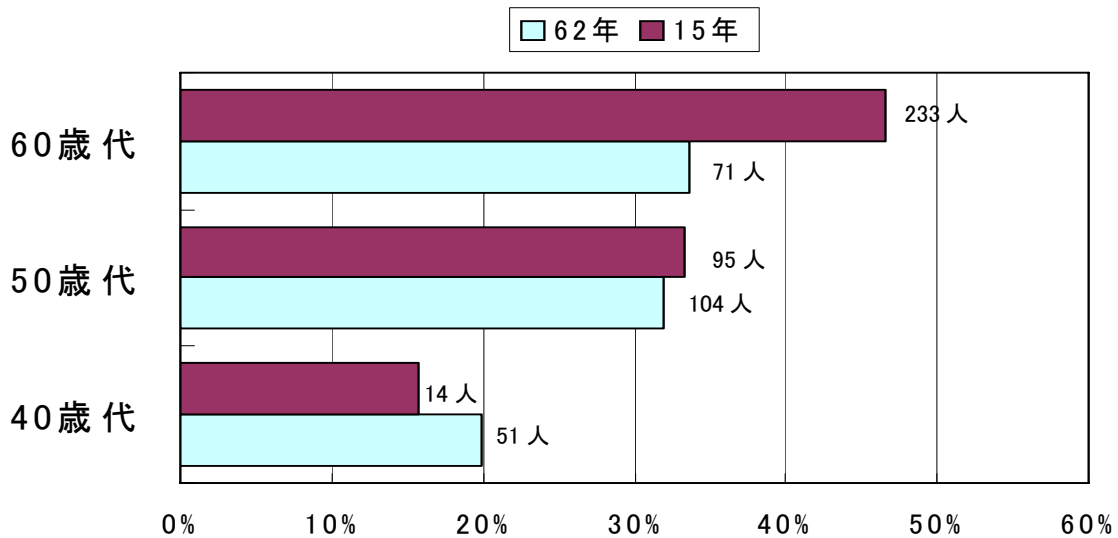
●血圧の比較

最高(収縮期)血圧は、男女とも年齢が上がると「130mmHg以上」の割合が増加しました。特に、60歳代では、他の年代よりも血圧の高い人の割合が増加していました。

収縮期血圧130mmHg以上の年次比較(男)



収縮期血圧130mmHg以上の年次比較(女)



対象者数

(人)

性別	年度	40歳代	50歳代	60歳代
男	昭和62年度	120	174	157
	平成15年度	53	150	337
女	昭和62年度	257	325	211
	平成15年度	89	285	501

4 同じ人の昭和 62 年度と平成 15 年度の健診結果からみた 16 年間の健康状態(肥満と血圧)の変化

追跡対象者の健康状態の変化を把握するため、昭和 62 年度と平成 15 年度の健診データについて、共通する健診項目の値を比較しました。

<分析対象・検討方法>

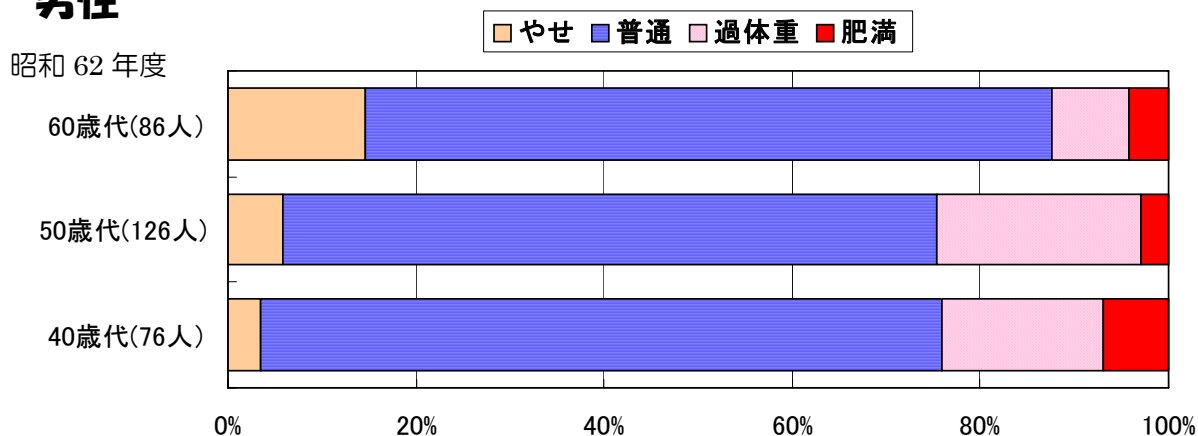
昭和 62 年度と平成 15 年度の健診データの比較が可能な 1575 人（男性 590 人、女性 985 人）を分析対象としました。健診項目のうち肥満、収縮期血圧について、昭和 62 年度に肥満度が「普通」の者、血圧が「異常認めず」の者（130mmHg 未満）の平成 15 年度の判定結果を検討しました。

●昭和 62 年度に肥満度が「普通」の方の 16 年後は・・・

①40歳代、50歳代だった男性の2割以上が、「過体重・肥満」に移行しました。60歳代は、「やせ」に移行した人が、「過体重・肥満」に移行した人を上回りました。

昭和62年度に肥満度が「普通」者の平成15年度の体型評価

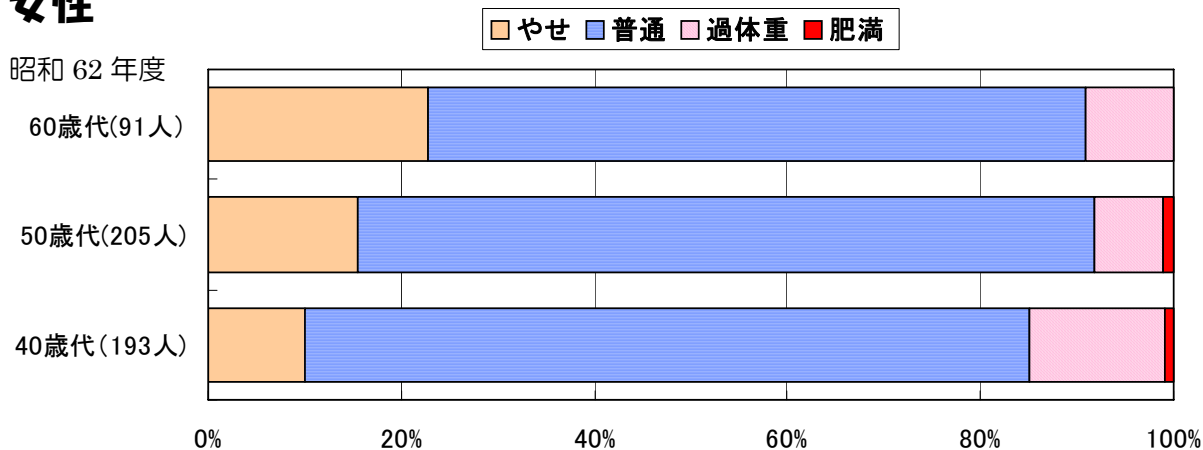
男性



②女性は、男性より「過体重・肥満」に移行した人が少なく、年代が上がると「やせ」へ移行した人が増加しました。

昭和62年度に肥満度「普通」者の平成15年度の体型評価

女性

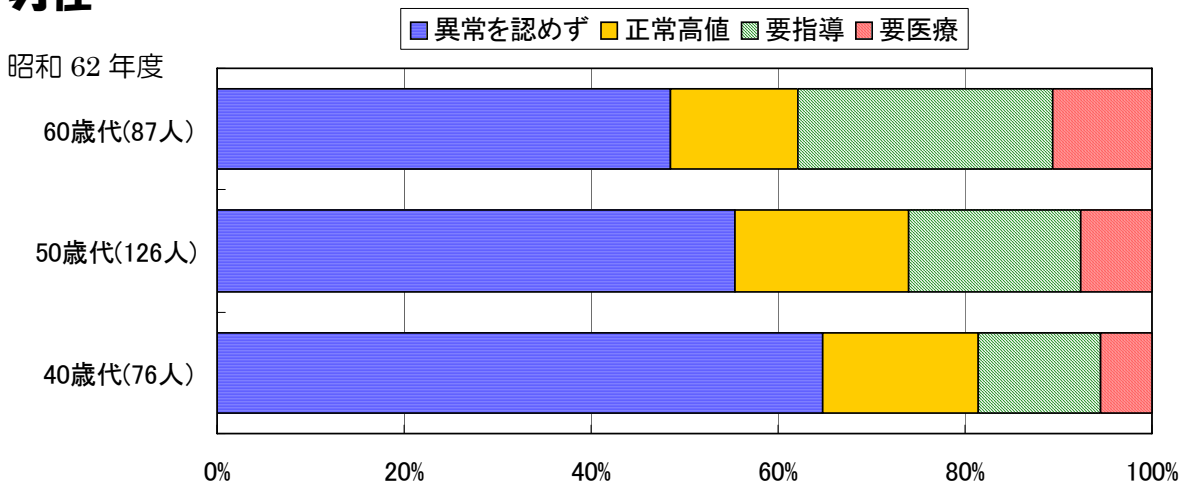


●昭和 62 年度に収縮期血圧が「異常認めず」の方の 16 年後は・・・

- ①男女とも昭和 62 年に「異常認めず」でも「要治療」にまで悪化した人がみられました。
男女とも年代が高くなると、「異常認めず」の割合が減り、「要指導」が増加していました。

男性

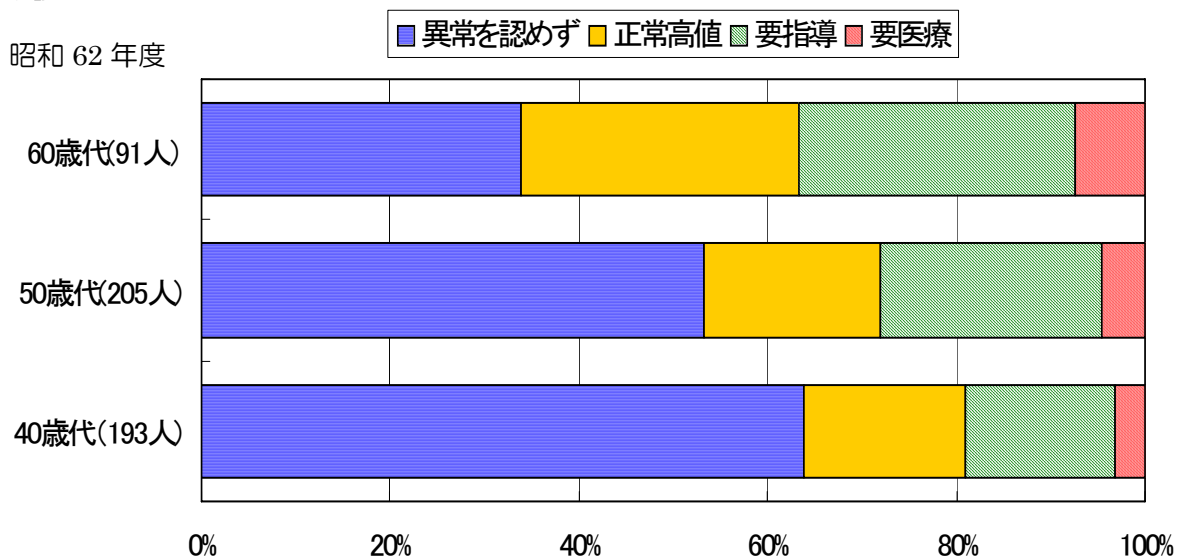
昭和62年度収縮期血圧「異常認めず」者の平成15年度の血圧評価



- ②女性は、男性よりも各年代で「異常認めず」の減少割合が大きくなっていました。

女性

昭和62年度収縮期血圧「異常認めず」者の平成15年度の血圧評価



血圧の判定区分

	異常認めず	正常高値	要指導	要医療
収縮期血圧 (mmHg)	130 未満	130 以上 140 未満	140 以上 160 未満	160 以上

5 生活習慣と検診結果との関連

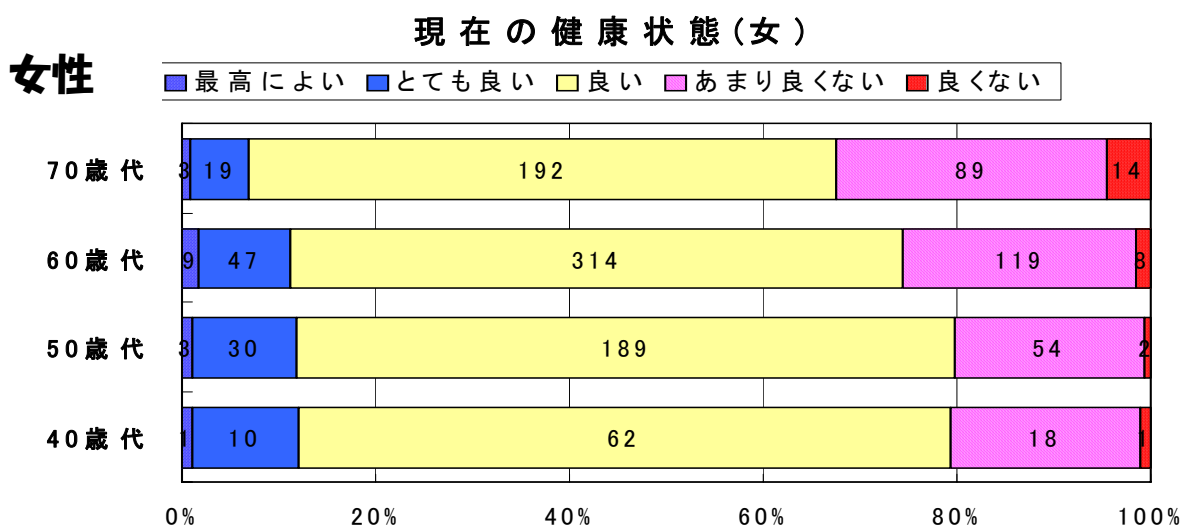
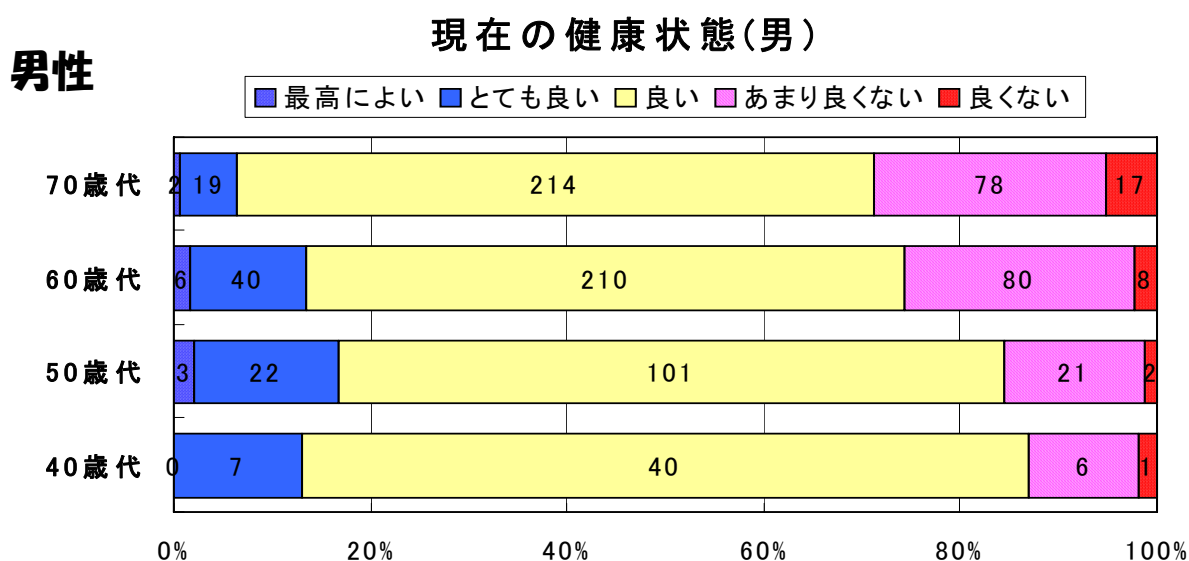
平成 15 年度の健診データのうち肥満度、最高（収縮期）血圧について、アンケート調査項目でも健診結果と関連が強いと考えられる「現在の体調」「飲酒」との関連を検討しました。

<対象者>

追跡承諾者で平成 15 年度の健診を受診した 40～79 歳の男女 2,061 人（男 877 人、女 1184 人）。

●現在の健康状態

男女とも、年代が高くなると「あまり良くない」「良くない」と感じる人の割合が多くなっています。女性は、どの年代でも「あまり良くない」「良くない」と感じる人の割合が、男性よりも多くなっています。

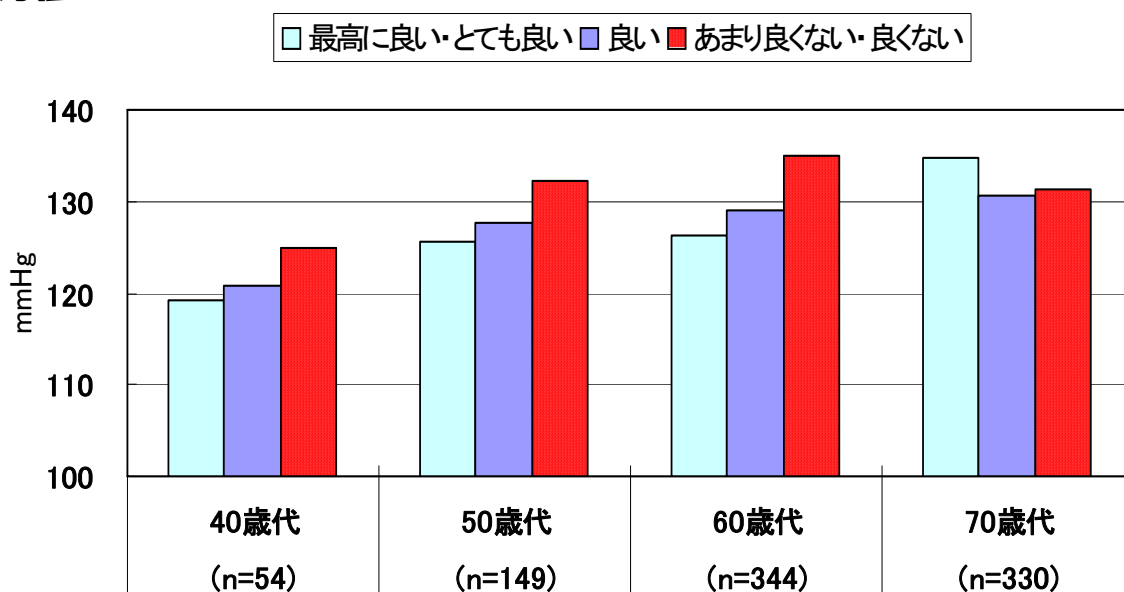


「最高によい」、「良くない」は人数が少ないため、以下の分析では、「最高によい」と「とても良い」、「あまり良くない」と「良くない」を一緒にし、3段階で検討した。

●現在の健康状態と血圧

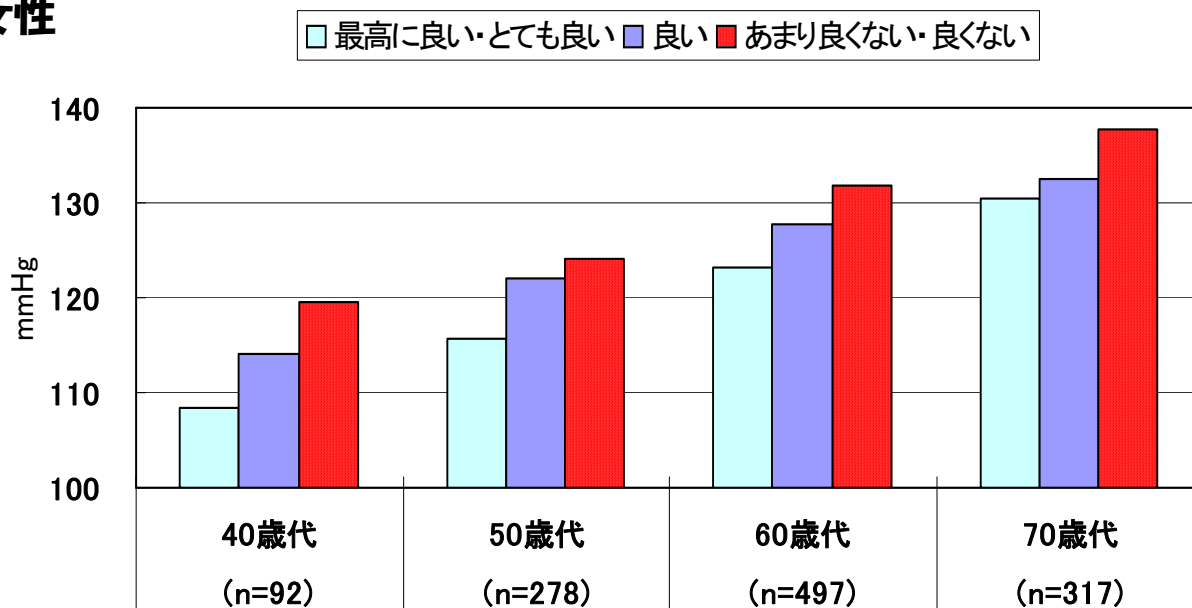
男女とも、現在の健康状態が「良くない」と感じる人は、最高(収縮期)血圧が高い傾向にありました。女性では、40～70歳代の全年代に同様の傾向がありました。男性の70歳代では、健康状態と収縮期血圧の間の関連が見られませんでした。

男性 年代別、現在の健康状態と収縮期血圧平均値(男)



年代別、現在の健康状態と収縮期血圧平均値(女)

女性

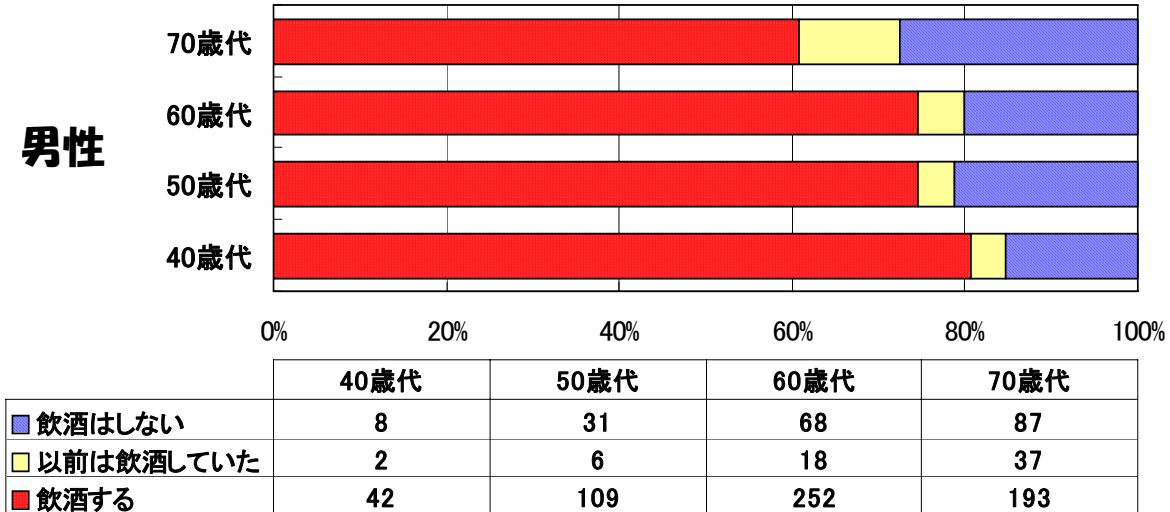


●現在の健康状態と飲酒

女性は飲酒習慣がある人が少なかったため、男性のみの結果を示します

1)現在の飲酒状況

男性の6割以上が飲酒習慣あり、年代が高くなるにつれ飲酒者は減少していました。

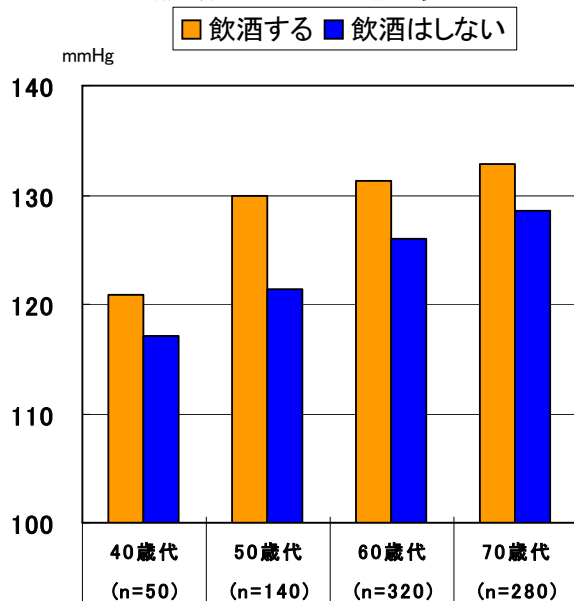


2)現在の飲酒状況と血圧・肥満との関係

いずれの年代でも、飲酒習慣「あり」は、飲酒習慣「なし」に比べ最高(収縮期)血圧の平均値が高くなっていました。

肥満度(BMI)の平均値と飲酒習慣の間には、各年代に共通した特徴はありませんでした。
 男性で飲酒習慣がある人は、血圧が高い傾向にあるが必ずしも太ってはいない!

年代別、現在の飲酒習慣と収縮期血圧平均値(男)



年代別、現在の飲酒習慣とBMI平均値(男)

